

VUCA の時代を社会関係によって乗り越える — 日本社会関係学会第 2 回研究大会開催にあたって —

研究大会運営委員会委員長
佐藤嘉倫

皆様のおかげで日本社会関係学会第 2 回研究大会を開催できますことを嬉しく思っています。コロナ禍のために残念ながら第 1 回研究大会に続いて本研究大会もオンライン開催となりました。ソーシャル・キャピタルを研究するものとしましては、対面式の学会大会、そして懇親会がどれだけソーシャル・キャピタル醸成に貢献してきたか理解していますので、その点ではとても残念です。しかしオンライン開催のおかげで地理的な制約がなく全国から多くの方にご参加いただけることになりました。私はこのことはコロナ禍の唯一のプラスの効果ではないかと考えています。ウィズ・コロナの時代においては対面式とオンラインの最適ミックス（たとえばハイブリッド形式）が見つかるのではないかと期待しています。

さて、コロナ禍もそうですが、現代社会は VUCA（Volatility、Uncertainty、Complexity、Ambiguity）の時代だと言われています。変動が激しく、不確実で、複雑で、あいまいな状況です。このような時代では、旧来の組織や制度にしがみついているだけでは生き残ることができません。そこで、「自己責任」というお題目の下に自分の力で VUCA の時代を乗り越えていかなければならないという言葉が流布しています。もちろん自分の力を磨くことも大切です。しかしソーシャル・キャピタルを研究するものとして、また日本社会関係学会の一員としては、社会関係の重要性を強調したいと思います。ベンチャー企業や NPO・NGO のような柔軟な組織形態で仲間と力を合わせて、そしてその中で自分の力を発揮していくことが大切だと考えます。

本研究大会ではこのような視点からのご報告が多くあるように感じました。報告者の皆様も私と同じような考えであることが分かり、たいへん心強く思いました。

最後になりましたが、研究大会運営になかなか時間を取れない私を支えて下さった運営委員会の皆様、学会事務局の皆様、とりわけ山内直人先生、そして何よりも貴重な時間を割いてご報告して下さる皆様、参加して下さる皆様に心より御礼申し上げます。